

令和7年度 学校経営報告書(自己評価)

学校番号	33	学校名	静岡県立清水南高校	校長名	山田 正訓
	1		静岡県立清水南高校中部		

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	中高一貫教育校のメリットを生かした学習計画に基づき、個別最適で探究的な学びにより魅力ある授業を実施し、学力の向上を図る。	「授業で力が付いた」と答える生徒の割合：80%	中等部:95.1% 高 校:87.9% 全 体:91.5%	A	日頃から ICT の活用等、個別最適な学びを実践してきたことで、高い数値が得られた。 しかし、試験結果からは学力が定着していない様子が伺え、生徒たちの中には「わかった」を「力が付いた」と捉えていると思われる。次年度は、真の意味での「力が付いた」を判断できるアンケート項目へ変更する。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%	中等部:73.5% 高 校:69.6% 全 体:71.6%	B	数値から学習習慣が身に付いていない生徒が多く、二極化が進んでいることが伺える。本来であれば、家庭学習は、課題ありなしに関わらず、習慣化され主体的に取り組むべきものである。 次年度は、家庭学習を大切にすよう、家庭の協力も仰ぎながら、その意義等を伝えていく。
		外部講師を招聘して行う教職員研修に対する教職員の満足度：70%	97% (内容の理解度)	A	弁護士を招き、人権教育に関する研修を実施した。具体例が多く示され、生徒理解を深めたり、生徒の支援に日常的に活用できたりする内容で参考となった。アンケート結果の97%の理解度から、70%以上の満足度であったと推測する。
		授業公開週間、研究授業等の校内研修での学びを生かし、授業改善に取り組んだ教員の割合：80%	95.5%	A	積極的に授業参観する様子が見られ、授業改善しようとする意識の高さが感じられた。特に異なる校種間の参観は、双方にとって想像以上に授業改善のヒントが得られているようで、これは大変有効な取組である。
イ	地域社会や産学官との連携を推進し、生徒が自らの生き方・在り方に関心を持つキャリア教育と探究的な学びの充実を図る。	「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合：80%	中等部:79.0% 高 校:92.5% 全 体:85.6%	A	中等部からのキャリア教育が、結果として高校で高数値につながっている。引き続き、多角的にキャリア教育を進めることで、卒業時に一人一人が満足いく進路を実現できるよう努める。
		講演、講義等の回数：年間合計10回	中等部：8回 高 校:12回 ※進路関係	A	中等部では、講演等を通して、社会とのつながりを知り、学問とのつながりを知る機会となり、高校では、自分の将来に向けてのイメージを確立することができた。
		大学の体験授業に参加、または、企業等を訪問・見学した回数：年間合計10回	中1：企業見学 中2：県内2大学訪問 中3：東京大学訪問 ※参加 高1：2時間/オープンキャンパス参加 高2：2時間/オープンキャンパス参加 高3：1時間	B	企業見学、大学訪問、オープンキャンパスへの参加など、中等部から各学年で計画的に実施された。生徒たちは実体験することで、進路意識の向上につながった。
		社会体験活動、企業や大学の訪問、校外でのボランティア活動に参加したと答える生徒の割合：60%以上	中等部:44.9% 高 校:60.8% 全 体:52.3%	B	ボランティア活動については、学校全体としての意識の低さが感じられる。多忙な中高生にとって、興味関心があっても週末等に、ボランティアへ参加することは難しいようである。 次年度以降、引き続き意識の高揚に努め、主体的な取組ができる生徒を育成していく。
ウ	特別活動や部活動等を通して生徒の自己有用感を高めるとともに、	「他者との関わりの中で、自分は価値ある存在だと感じる」と答える生徒の割合：70%	中等部:93.9% 高 校:90.6% 全 体:88.1%	A	成果目標に近い項目のアンケート「自分の良いところも、他人の良いところも認められる」を代替とした。数値結果から自己肯定感が高く、他者を尊重することができている様子が伺える。 次年度はアンケート項目をきちんと見直し変更する。

様式第1号

<p>教育相談体制を充実させ、心身ともに健康な生徒を育成する。</p>	<p>部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上</p>	<p>中等部:93.9% 高 校:82.3% 全 体:88.1%</p>	<p>A</p>	<p>次年度からは、部活動が任意加入となり、大きな変革の年となる。ガイドラインを遵守し、活動時間や部活動の在り方を見直し、教員・生徒双方にとって無理のない体制を整えていく。</p>
	<p>「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合：80%</p>	<p>中等部:89.7% 高 校:86.0% 全 体:87.9%</p>	<p>A</p>	<p>数値ほどの実感ができていない教員もいることから、仲間内ではできるが、「誰に対しても」は、できていないことが考えられる。</p>
	<p>教員等による交通安全街頭指導の実施：学期に1回</p>	<p>4回</p>	<p>A</p>	<p>自転車事故発件数ゼロに向け、街頭指導だけでなく、校内での声掛けを通して、引き続き安全意識の向上に努める。 また、高校生のヘルメット着用については、引き続き検討する。</p>
	<p>SSW、SCの稼働率：70%</p>	<p>SSW、SC:100%</p>	<p>A</p>	<p>稼働率が高いということは、それだけ悩みを抱えた生徒がいるという裏付けとなる。ただその一方で、教員だけでは補完できない生徒のメンタルサポートや助言は、間違いなく心の支えとなっている。 次年度以降は、現体制を維持しながら、予約が取りにくい状況や教室の確保等の改善を図っていく。</p>
	<p>「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%</p>	<p>中等部:89.7% 高 校:82.6% 全 体:86.2%</p>	<p>A</p>	<p>数値は高いが、悩みを打ち明けられない生徒が約15%もいることをきちんと受け止めておく必要がある。日頃からの生徒の様子をよく観察し、声掛けや教員間での情報共有を密にしている。 重い問題を持った生徒が増えてきており、どこまで学校が介入すべきか、難しい判断を強いられることも増えているため、外部機関・専門家を有効に活用していく。</p>
<p>「保健だより」の発行：年間12回</p>	<p>12回</p>	<p>A</p>	<p>養護教諭の指導のもと、保健委員が中心となり、生徒自身が気になる健康に関する事柄を主体的に発信できた。またそうした取組は、生徒の役割意識を向上させることへつながった。</p>	
<p>エ 魅力ある学校行事等を実施し、国内外の文化・芸術に触れる体験を通じて、豊かな感性や表現力を育てる。</p>	<p>「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：80%</p>	<p>中等部:92.5% 高 校:88.2% 全 体:90.4%</p>	<p>A</p>	<p>学校行事へ積極的に取り組む様子からも、学校生活の充実を実感していることが伺える。学校行事は、教育効果が高いため、次年度以降もそうした場の確保に努める。 働き方改革や生徒に時間を還元する考えから、別途行事の精選については、検討していかなければならない。</p>
	<p>研修旅行で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上</p>	<p>中等部2年:98% 中等部3年:96.1% 高 校:100%</p>	<p>A</p>	<p>きちんと事前学習に取り組み、また現地でも、皆で協力して主体的な探究活動ができたため、充実した研修旅行となった。 海外の研修旅行は健康面で不安が強く、今年度は特に感染症拡大により、その対応に大変苦慮した。また、円安と旅費の高騰が家計を圧迫していることへの対応も考えていく必要がある。</p>
	<p>「表現力や協調性が身に付いた」と答える生徒の割合：80%</p>	<p>96.2%</p>	<p>A</p>	<p>「表現」の授業を通して、日々成長する姿が見られた。「表現発表会」も成功裡に終わり、生徒一人一人が自身の表現力や協調性に自信を得た結果だといえる。</p>
	<p>[音楽]芸術鑑賞、校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計10回以上</p>	<p>13回</p>	<p>A</p>	<p>生徒の日頃の練習成果を十分に発揮し、特に高名な演奏家による特別レッスンを受けたり、聴講したりしたことで、音楽性を高めることができた。</p>
	<p>[美術]美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計10回以上</p>	<p>14回</p>	<p>A</p>	<p>専門性の高い内容を学習する機会であり、生徒にとって良い刺激となった。次年度以降も継続実施していく。</p>
	<p>[演劇]芸術鑑賞、校内上演会、実技講習会等実施回数：年間計10回以上</p>	<p>35回</p>	<p>A</p>	<p>鑑賞体験は、社会課題と結びつけることで、現代社会への洞察力の高い表現者の育成へつながることができた。 また、専門性を深化させ、海外短期留学する生徒も現れた。</p>

様式第1号

オ	世界文化遺産のある三保の地の、郷土・文化への理解を深めるとともに、地域と連携した教育活動を内外に発信することにより、開かれた学校づくりを推進する。	読書活動の取組による生徒の充実度： 70%	99%	A	朝読書、朝読書週間、ビブリオバトルを計画的に実施した。特にビブリオバトルでは、発表者も聴衆者も意欲的に取り組み、双方良い刺激を受けていた。 次年度は、更に発表内容を改善し、より質の高い取組となるようしていく。
		図書館貸出数：4,000冊以上	4186冊(12月)	A	昨年比-251冊であったが、エアコンの工事期間があり、生徒数が減少していることを勘案すると、目標は達成できた。次年度は、高校生の貸出数の増加を促す仕掛けを検討する。
		実践的防災訓練実施：年間3回	3回	A	より実践的な訓練ができており、夏の津波警報発令時もマニュアルにそった迅速な対応ができた。 次年度は想定外に備え、津波と火災の同時災害対策訓練の実施を検討していく。
		地域防災訓練参加率：生徒、教員の参加率60%	中等部：60.3% 高校：53.0% 教員：63.0% 全体：58.8%	B	高校の数値が低いことが気になる。本来、地域防災の中心的役割を担う存在であることを考慮すると、日頃から訓練に参加しておくべきであり、意識改革が必要である。
		土曜オープンスクール参加者数：年間1,200人	915人	B	参加数は目標に届いていないが、内訳として一般の訪問数は増加している(+61人)。ただ次年度は、行事の精選、教員の負担軽減から開催回数を3回から2回へと減らすため、他の広報方法を検討していく。
		学校公式SNS発信数：年間250件	240件(12月)	A	南陵広報委員とも協力し、コンスタントに発信できた。次年度以降は、閲覧数を増やすための工夫を検討していく。
カ	安心・安全な教育環境の整備と業務の効率化、及び働き方改革を含めた業務改善により、教育活動の充実を図る。	例月指導検査、会計・物品事務指導検査における文書指示、注意事項：0件	文書指示 0件 注意事項 2件	B	軽易な注意事項であったが、職員自身が誤りに気づき、適切に処理できた。再発防止の意識向上のための目標数値であり、その目的は達成できた。
		学校施設、管理財産の安全確認の実施：月1回以上	1回/月	A	定期的に巡回することで、破損状態の拡大防止や複数個所の同時修繕など、事務処理の効率化につながっている。
		教職員のNESメール確認：100% クラウドサービスの導入検討着手（見直しを含む）	個人メール：100% 学校メール：91.5%	B	データは、1週間に1回以上確認していることを最低ラインとした結果である。再三職員会議や掲示板で呼びかけをしてきたが、学校メールに関して、徹底することができなかった。多忙も一因かと思うが、習慣化するまで引き続き伝えていくこととする。 クラウドサービスについては、次年度向け、Cラーニングを導入することに着手した。
		夏季休暇の取得率：100%	98%	B	100%でなければならない項目だが、実態は数字以上に厳しい。夏休みに一日体験入学が2日間、芸術科の適性検査の準備、実施、選考があり、さらには市内の進路相談会があるなど、すべてに関わる教員は、形式だけの取得となっている。 次年度は、取得期間が6月から10月であること改めて早期にアナウンスしていく。
		時間外勤務一ヶ月平均45時間以上の教職員数の割合、前年度比減	17%減	A	大幅減となったが、教員の人事異動による入替えや、勤務時間が自己申告のため、この数値を鵜呑みにすることはできない。常に働き方改革を呼びかけつつ、適切な仕事配分、行事の精選、部活動の活動時間の短縮等を進めていく。
		運営委員会における審議の効率化と職員会議における報告の簡潔化による勤務時間内での会議の終了	90%	A	概ね時間内で終了することができた。超過が生じた際は、その分軽減措置を取って対応した。会議は常に情報過多であり、教職員がその会ですべてを把握し、理解することは困難である。各先生方には改めて内容を確認する時間を持つようお願いする。 また、次年度以降は掲示板を今まで以上に活用し、会議の情報量を調整していく。